

『予防接種の考え方と適切な接種計画』

名鉄病院予防接種センター 顧問 宮津光伸

2008年12月ActHib(Hib)の導入を皮切りに多くのワクチンが実用化されてきた。ワクチンギャップと言われ続けてきていたが、Hibはアメリカに遅れること20年、PCV7は10年、Rotaは6年、HPVは5年、PCV13は3年と、徐々に解消されてきている。ほぼアメリカ並みの予防接種が整い、帰国子女にもほとんど同様な接種で継続でき、また乳児期早期の渡航に際しても、海外での連続した接種計画も立て易くなってきている。ハードは整ってきているが、あとは接種医のワクチンに対する考え方と実践だけである。このソフト面の遅れの解消は容易ではない。

できるだけ早期に接種を始め、免疫を高めて安全を確保するためには、3-4種類ほどの同時接種は不可欠である。子どもと母親の負担を軽減し、より有効で安全な接種方法でもある。

《予防接種の目的とその考え方》

1) 適切な接種方法を遵守して、有効な免疫を獲得して病気に罹らない、罹らせないことがたいせつである。

☆推奨されている時期(月・年齢)に、決められた間隔で、必要な回数を接種する。

☆不活化ワクチンは、適切な接種でほぼ免疫ができるが、5-10年間で低下する。追加接種を忘れない

☆生ワクチンは、免疫ができれば有効だが、陰性のままでは期待する効果はない。接種後、6週間以上あけて抗体検査を計画する。必ず追加接種して免疫を確認する。

☆ワクチン接種による免疫抗体は低下することがあるので、必要に応じて免疫の持続を確認する。不活化ワクチンは、基礎免疫終了後10年、生ワクチンは、陽転後10-20年で追加を考える。

2) 生ワクチンと不活化ワクチンの接種間隔と理解する。

☆生ワクチンどおしでも同じワクチンの場合は、8週間程度、それ以上あける。

MRやおたふくかぜは、2回目を打つなら8週間以上あける《免疫があれば追加は不要》
水痘の2回目は3カ月以上あける《定期接種》。

ロタウイルスは4週間以上開けて、期限内に完了できるように開始する。

☆不活化ワクチンどおしでも、同じワクチンの場合は所定の間隔をあける〔推奨4-6週〕
DPT3種混合《破傷風ジフテリア百日咳》、DPT-IPV4種混合は3-8週間、HibやPCV13は4-8週間、同時接種をするときは長い方に合わせる。

日本脳炎は1-4(3-6)週間、インフルエンザは2-4(3-6)週間、IPVは4(4-8)週間とされているが、これが最短期間であることを理解して短縮は品ごとがたいせつである。

「ワクチンの接種目的を理解すること、そしてそれに至る考え方の普及が大切である」

《B型肝炎ワクチンの考え方と接種時期》

A) 母親がHBs抗原陽性のキャリアーの場合；母児感染予防対策として生後12時間以内に初回接種をし、生後1か月と6か月で3回接種。

その1か月後に検査（HBsAg, -Ab, HBcAb）で確認する。海外では生直後から3-4回接種している。

B) 家族内にキャリアーや感染者がいる場合；できるだけ早期に開始。生後1か月、2か月、6-7か月での3回接種を推奨する。

C) 保育園や幼稚園など集団生活の始まる前までに接種する。

①乳児保育や1歳早々で入所を考える場合。

1) 小児科学会や小児科医会のスケジュールで、2・3・7-11か月で、定期接種に合わせて同時接種で3回接種する。

2) 乳児期後半のBCG接種の前後から開始し、6・7・11か月で接種。

②3歳からの幼稚園入園までに3回接種する。

D) 思春期での感染リスクの増加に対応する。乳児期の接種は10年程度で低下するので、追加接種を検討する。

E) 海外渡航時には遅れないように2回目まで計画する。追加は現地で、または一時帰国で追加する。HBsAbの陽転を確認する。

F) 医療関係者はリスクに応じて積極的に接種する。HBsAb陽性の持続を確認する。

《2種類の肺炎球菌ワクチンの考え方》13価[プレベナー]と23価[ニューモバックス]

★13価を接種して、6-12か月後に23価を接種する。それ以降の追加接種は不要。

23価を追加接種する前に13価を接種するように計画する。【推奨接種】

★23価を接種してあれば、1年以上開けて13価を接種する。2回目の23価を追加する時は、さらに1年以上あけて、且つ23価の1回目から5年以上開けて追加する。

①13価 …(6か月から1年後)… 23価 【更なる追加接種は不要とされている】

②23価 …(1年以上開けて)… 13価 …(1回目の23価から5年以上開けて)… 23価

③13価 …(8週間あけて)… 23価 【脾臓摘出時や免疫低下などで感染リスクが高い時】

注意事項；13価は、生後2か月から6歳未満と65歳以上にしか認可されていない。それ以外の世代は任意接種にも該当しないので国の保証はない。本人または保護者の同意書が必要

《予防接種の間違いを防ぐために》

間違いや勘違いは、誰でも何処でも起こりうる。その後の対策をきちんとすることが大切である。普段からの慎重な扱いと注意が必要である。

ワクチン保管庫〔冷蔵庫及び冷凍庫〕の温度と、ワクチンの期限の確認は、チームとして毎日のように行う。【接種医師の責任で行う】

A) 接種時の注意と準備

1) 母子手帳での確認【90%減少】

2) 希望するワクチンと予診票の確認

3) 保護者に、被接種者名とワクチン名を確認

4) 自分で溶解し、注射器に吸引する【99%減少】

5) しっかり固定して接種する(スタッフとの連携を確認)

6) 接種後の注意と副反応について、自分の言葉で説明する(保護者の認識度の確認)

7) 次回の予定、接種計画を相談する。